

はじめに

2012年度にスタートしたプロジェクト研究「遷移途中にある自然環境を自然遺産として良好に保全するための研究モデルの策定－磐梯朝日国立公園の人間と自然環境系（生物多様性の保全）に関する研究－」（文部科学省特別経費（プロジェクト）採択事業，略称「磐梯朝日遷移プロジェクト」）も3年目，早いもので折り返し地点を過ぎました．今年度も裏磐梯の湖沼群や河川，猪苗代湖，阿賀川流域，会津盆地などで水量，水質，地下水位の変動，地下水流動，積雪，水の色など，水に関わる様々な研究を展開し，データの蓄積と解析を行ってきました．裏磐梯地域における河川，湖沼，森林における動植物や大腸菌群に関する研究も分布，生態，多様性に関するデータの蓄積に加え，食物網や遺伝構造の解析も進みました．北塩原村で実施した社会科学的な調査からはエコツーリズムやジオパークの認知度の現状が把握でき，課題も浮き上がってきました．このようなプロジェクトによる2014年度の研究成果が本報告書の中で報告されています．また，今年度の報告書ではプロジェクトの目玉の一つである猪苗代湖湖底堆積物コア試料に関する研究について，これまでに得られた成果をまとめて掲載しました．猪苗代湖の最深部の湖底を掘削して得られた堆積物から読み解かれた過去の気候，水質，植生，人間活動などの変遷に関する最新の知見を盛り込んだ報告を是非ご覧下さい．本報告書は昨年度に引き続き「裏磐梯の湖沼環境を考える会議」の報告書も兼ねています．磐梯朝日遷移プロジェクト並びに裏磐梯の湖沼環境を考える会議のさらなる発展のため，本報告書掲載の報告やプロジェクトや会議の活動に対する忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いです．

3年目のプロジェクトでは過去2年間に蓄積した基礎データを土台として，分野横断的な連携研究を展開し，プロジェクト・メンバーの研究分野と成果を面的に広げました．そして来年度はいよいよプロジェクトの最終年です．猪苗代湖の古環境変遷，桧原湖，五色沼，銅沼を含む裏磐梯湖沼群の表流水・地下水，水域や陸域における生物相や生物多様性とその動態，猪苗代や裏磐梯地域を訪れる人と暮らす人，3年間にわたってプロジェクトが蓄積してきました猪苗代地域や裏磐梯地域を中心とした「自然と人間環境系」に関する膨大なデータに基づいて，この地域の自然環境を維持・管理するためのビジョンを策定し，プロジェクトを完結させたいと考えています．

最後に，このプロジェクト研究を直接支援していただいている文部科学省をはじめ，環境省東北地方環境事務所，環境省裏磐梯自然保護官事務所，福島県，北塩原村，猪苗代町，郡山市，会津若松市などの関係機関や自治体の皆様，公益財団法人福島県保健衛生協会，裏磐梯ビジターセンター，株式会社ニチレイ，株式会社裏磐梯高原ホテル，津金産業有限会社の皆様，福島大学の関係各位に心から感謝申し上げます．猪苗代湖湖底堆積物コア試料に関する研究でご支援とご協力を頂きました早稲田大学，信州大学，滋賀県立琵琶湖博物館，大阪市立大学，近畿大学の研究者の皆様にも心から感謝申し上げます．来年度に予定しているプロジェクトや会議の活動へのご協力とご支援も引き続きよろしくお願い申し上げます．

2015年2月7日

磐梯朝日遷移プロジェクト 代表
塘 忠顕